諫早市社会福祉協議会だより

かんしゃ

2月号
2022
Vol.198

お互い助け合う「感謝（かんしゃ）」の気持ちと「諫（かん）早市社（しゃ）会福祉協議会」の意味を込めて名付けました。末永く皆さまに愛される広報紙を目指しています。

夢が現実に！

～私たちのまちに移動販売車がやってきた!!～

買うもんは、自分で選びたか。

本明町に住むある住民の声。本明町は、昔ながらの顔見知りが多いまちです。近くにスーパーがなくても、困ったときはお互いさまで助け合い、さほど不便に感じていませんでした。でも、やっぱり商品は自分の手に取って吟味したい。そんな、高齢者の心の片隅にある声なき声に耳を傾けた本明町自治会。

高齢者の夢を叶えるには、課題が多いと悩んでいたところへ近隣に移動販売車が来ているという情報をキャッチ。早く何とかしたい、そんな思いで市内で移動販売をしている青果店へ直談判。誰もが利用しやすいように町内の数カ所に停車して欲しいこと、買い物が楽しめるよう品揃えを充実して欲しいこと、など想いを伝え、試行錯誤しながらわずか約3週間で夢が現実になりました。

月曜日の夕方、本明町のいたるところで笑顔の花が咲いています。「こっちの方が良かごたんね」「こいが、うまかとバイ」と商品を吟味しながら会話が弾みます。

できないことより、できること。発想の転換が、町内に住む高齢者に笑顔を運んできました。年を重ねて身体が思うように動かなくなっても、想いを変えれば楽しみは広がります。

今号は、諫早にある困りごとに耳を傾けた新たな第一歩を紹介します。今年は寅年。いろんなことにトライしていきたいですね。

⇦2Pの下段に続きます。

この広報紙は、皆さまから寄せられた会費、共同募金・寄付金などで作成しています

新年のご挨拶

社会福祉法人
諫早市社会福祉協議会
会長　寺井　雄一

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、旧年中は、本会の事業活動の推進に対しまして、多大なるご支援、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は新たな変異株も発生しまだまだ安心ができない状況が続きます。コロナ禍をとおして多くの課題が浮き彫りになり、これまでのセーフティネットが脆弱であることが露呈しました。困った時は原点に戻れと言われています。私たち社会福祉法人の使命は「幸せ」の追求だと思います。私は、「幸せ」は誰かが評価をするのではなく、それぞれの心の中にあると考えます。九十代で働いているご老人、「この年で働けることはありがたい」、また六十代独身の方が「あの人は不幸せだったよね」と言われるかもしれないけど、好きな映画を見て、好きなワインを飲めばそれだけでまあまあ幸せ、というような記事を読みました。ひとりよがりの「幸せ」にならないよう心にとめたいものです。

昨年は少しでも市民の方に元気になってほしい、笑顔になってほしいという思いで、赤い羽根共同募金の一環として「ハロウィン　ルノンマルシェ」、「歳末たすけあい演芸大会」、「困ったときはお互いさま～諫早のお米でささえるプロジェクト」の開催・実施をしました。市民の方々には喜んでいただけたと自負していますが、「してやってる」ではなく、「させていただく」という気持ちを持とうと職員一同心をともにしています。羊頭狗肉にならないよう今後とも「地域共生社会の実現」、そして「人づくり」の一助となるよう邁進してまいります。

どうぞなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

移動販売車が深める地域のきずな　～本明町　買い物支援の取り組み～

本明町では、週に１回、町内３ヵ所に移動販売車がやってきます。いつもの空き地が、活気あふれる青空市場に大変身。移動販売車を待つ間や買い物中に、おしゃべりが弾み、笑い声が空高く響きます。

運転免許証を返納した高齢者や、足や目の不自由な方もひとりでゆっくりと買い物に行き、好きなものを自分で選べるようになりました。さらに、子どもたちは校区内でおやつを買えるようになり、にっこり。

公民館で開催されている高齢者ふれあいいきいきサロンには、自宅から遠いため歩いていけないという人も、「ここに来ればみんなに会える。週に１回の楽しみができた」と。少し重たいキャベツもシルバーカーに乗せ、ご近所同士、お互いに見守り合いながら帰ります。移動販売車は、買い物だけでなく、三世代の交流や住民同士の見守りも自然にできるようになり、新たな地域の集いの場となりました。

自治会長は、「住民の方に大変喜んでもらって嬉しい。なにより、地域の活気につながってよかった」と話します。

移動販売車がきっかけで、本明町の地域の絆がより深くなっています。

子どもたちにあたたかい居場所を

諫早市母子寡婦福祉会 ～学習支援の取り組み～

諫早市母子寡婦福祉会（会長　松本幸子）は、令和３年９月から新たな取り組みとして、ひとり親家庭の小学生から中学生を対象に週に１回無料の学習支援をスタート。

きっかけは、松本会長の「もっとひとり親家庭の困りごとに寄り添った支援をしたい」という想いから。ひとり親家庭にアンケートを実施したところ、「塾に通わせることができない」「ひとりだとなかなか手が回らない。勉強を見る余裕がない」など学習に関する悩みがたくさん寄せられたそうです。

松本会長は、何とかしたいと市と市内の大学に学習支援の必要性について訴え、連携が実現しました。また、この事業の想いに共感した市内の企業からも、ノート等が寄せられるなど嬉しい誤算もありました。

保護者からは「家でも勉強するようになり、テストの点数が上がった」「このような場所を設けてもらえて大変助かる」との声。さらに、おばあちゃんから離れなかった男の子も、今では１人で準備をして、階段を駆け上がりながら嬉しそうに学習室へ向かっています。回を重ねるごとに、仲間や支援者とも打ち解け、学習室が子どもたちにとってあたたかいもう１つの居場所に変わりつつあります。

「先生、見て。もう宿題終わったよ！」子どもたちが嬉しそうにかけよる姿。勉強を見ている大学生が、「すごい！早かったね」と言いながら、添削を始めています。

松本会長は「みなさんにご協力いただいて実現できた。活動を通して、学習面だけではない子どもたちの大きな成長を感じ、この事業の必要性を強く感じている。今後も継続できるよう努めていきたい」と意気込みを話してくださいました。

地域を巻き込んで実現したこの事業、子どもたちの健やかな成長を願うたくさんの想いが手を取り合って、新たな一歩を踏み出しました。

※諫早市母子寡婦福祉会とは……
ひとり親家庭を応援する福祉団体です。

私たちの新たな第１歩

私たちが住んでいる諫早には、制度だけでは対応できない困りごとがたくさんあります。自分のまちに気になるところはありませんか。

自分ひとりにできることは、小さなことかもしれませんが、力を合わせると大きな力に変わり、誰一人取り残さない社会につながります。

まずは、自分にできることを見つけることで、安心して住み続けられる地域を目指す新たな第一歩を踏み出してみませんか。

令和３年度諫早市ボランティアフェスティバル

パネル展

市内で活躍しているボランティア団体の活動を紹介します。

また、今年度から新たに活動紹介の動画放映に取り組んでいます。

みなさまのご来場をお待ちしています。

期　日：２月８日㈫～２月12日㈯
（２月11日休館日）
会　場：諫早市立図書館　展示ホール
入場料：無料
主　催：諫早市ボランティア連絡協議会

デザイン協力：創成館高校デザイン科
眞田あかりさん

教育支援資金

経済的な理由により高等学校、大学等への進学に不安を抱える方を対象に進学に必要な学費・就学支度費用を貸し付けています。

詳しくはホームページ、もしくは問い合わせください。

HP の QR コード➡

【問い合わせ先】
諫早市社会福祉協議会　地域支援課
TEL：0957-24-5100

シリーズ地区社協 第28回

地域が共に支え合うまちを目指して

～森山地区社会福祉協議会～

森山地区ってどんなところ

森山地区は、島原半島の付け根に位置し2つの国道が通る交通の要衝地にあたります。古くから干拓が行われ、米やミニトマトなど農業が盛んで、住民同士が支え合う、人の温もりが感じられる自然豊かな地域でもあります。

生活様式の変化等により、隣近所の付き合いも減る中、これまで培われてきた住民の支え合いを大切にしていくためには、同じ地域に住む住民同士の理解が必要です。森山地区社協では、令和3年度に、今後5年間の地区社協の基本的な考え方や取り組みを決めた地域福祉活動計画を策定。重点目標に、「住民同士が支え合う地域の見守り活動」を掲げ、住民が福祉の関心を深め、積極的に活動に参加する取り組みを進めています。

支え合いの一歩は知ることから

森山地区は、年々高齢化が進み、10年の間に高齢化率は、約9％上昇しています。介護が必要になったり、認知症になっても住み慣れた場所で安心して過ごすためには、住民の支え合いが欠かせません。支え合いの一歩は、学び、知ることから。同社協は、福祉に関する学ぶ機会を設けるため、今年度から新たに住民を対象とした「地域福祉セミナー」を企画。セミナーの講師に地区内の特別養護老人ホーム「唐比温泉秀峰荘」の職員を招き、森山地区の状況を踏まえた、介護保険サービスの利用の仕方や、認知症の予防などをテーマに取り上げています。

参加した唐比自治会の佐藤会長は、「介護や認知症で悩んでいる人がいても、住民の理解があれば、一人で抱え込ませず声をかけたり、情報提供をすることができる」と思い、唐比自治会で同様の学習会を開催。学びの場が、地区全体に広がっています。

地区社協が住民をつなぐ核となる

山口会長は「支え合いをするにも、どのように支えていくかを知らなければ活動は始まらない。学ぶことで何が必要かを知り、何をしていくのかもわかる。

活動をしたくてもどのようにしていくかわからない住民や福祉施設を地区社協がつなぎ役になって、住民同士で支え合っていく森山をつくっていきたい」と熱く語りました。

地域福祉セミナーの様子

会　長	山口　公徳
人　口	4,990人 (令和3年12月1日現在)
高齢化率	35.2%

森山地区社会福祉協議会ってどんなことしているの？

- ふれあいいきいきサロン(14箇所)
- 子育てサロン(1箇所)
- ひとり暮らし高齢者新米配付(年1回)
- 広報紙発行（4回）
- 福祉協力員設置（11人）
- 世代間交流事業（1回）
- 防減災まちあるき事業（1回）
- 防減災まちあるき推進員(14人)
- 地域福祉セミナー（年4回）

※地区社協とは、おおむね小学校区を単位とし、地域やその住民が抱えている課題を発見し地域でその解決に向けて取り組んでいくための住民組織です。

ご寄付ありがとうございました

次の皆様から、心温まるご寄付をいただきました。
ご厚志に沿うよう地域福祉事業のため大切に使わせていただきます。

令和3年12月1日～令和3年12月31日受付分

篤志寄付 ▶原口町公民館　弘法大師堂浄財 様（原口町）

香典返し ▶谷川　陽子 様（原口町）【亡長男　新 様】

2月のふれあい福祉相談

財産、権利擁護など、法律上の悩みごとなどをおたずねください。

無料専門相談		
	開設日	2月18日(金)　弁護士
	開設時間	午後1時30分～4時
	場　所	**諫早市社会福祉協議会** 電話　24－5100

※専門相談は、10日前までに予約をお願いします。

follow me

Facebook　Instagram

編集発行　社会福祉法人 諫早市社会福祉協議会
〒854-0045　諫早市新道町948番地
TEL 0957-24-5100　FAX 0957-24-5101
ホームページ　http://isahaya-shakyo.jp
（諫早市社会福祉協議会で検索ください）

印刷：合資会社 真光社印刷

諫早市社会福祉協議会だより「かんしゃ」では、広報誌に関するご意見、地域で行われる福祉活動や行事の情報を皆様から募集しています。